

D 施設・拠点別情報提供の留意点

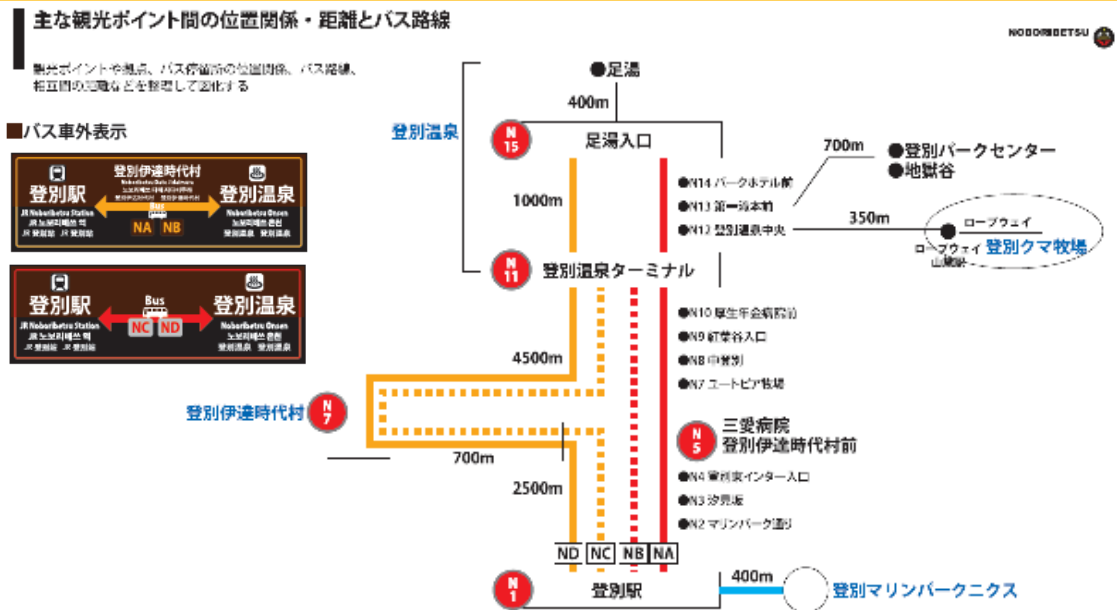
D-1 駅・ターミナル

ミニマム ポイント	①行き先、停まる・降りる場所をローマ字併記 ②料金表、時刻表、路線図を多言語 ③言葉で説明が難しいことは、絵や写真で説明
--------------	--

1 路線図

- 外国人観光客の利用が多い路線、駅名やバス停名にローマ字を併記します。
- バスなどでは直行ではなく「経由便」だと不安で乗りづらい場合があるので、「□と□に乗れば○○に着く」ということが分かるようにします。
- 路線を色分けしたり、駅名やバス停名を数字や英語で表すなど、「色」や「数字・英語」で、誰でも分けが分かるようにします。

例 文字を読まなくても「N1」などのIDで探せるように、外国人観光客がよく利用するルートにはNA・NB・、バス停にはN1・N2・と表記（ID化）（北海道・登別）



例 バスの車体が異なる場合は、バスの写真を掲示（福島県・会津若松）



× 「特急」「急行」「快速」の違い、「高速バス」と「特急バス」の区別などが、外国人には分かりづらい、という声をよく聞きます。右のような掲示方法だけでは乗り場に困るので、補足の説明が必要です。



2 時刻表

- 左端に時、その右側に分を示す「時刻表」の見方が分からない場合が多いので、「時刻表（タイトル）」「行き先」「時・分の区分」を多言語化します。
- 曜日限定、期間限定の運行（運休）なども多言語化します。



3 切符販売

<切符販売機では>

- 券売機によって買い方が異なるので、切符販売機の使い方を説明します。
- 金額の単位「円」が省略されていると分かりづらいので、表記します。
- 「子ども料金」「特急料金」「指定席料金」「乗り継ぎ料金」なども多言語化します。
- 行き先&料金一覧等を作成する時は、アルファベット順に並べるなど、外国人が探しやすいようにします。

<窓口では>

- 窓口での売買（精算）は、筆記か電卓等で数字を示し、相手に確認しながら行います。
- 周遊券やフリー切符などを使いたい、と思っている人も多いので、窓口や張り紙等で案内します。

4 乗り場

- 乗場が複数ある場合は、間違っ乗らないように、行き先をローマ字で示したり、番号で案内するなどします。
- 人が確認・案内できる場合は、行き先を確認し、降りる場所を案内します。
- バスやタクシーの乗り場についても、すぐ見つかるよう、掲示物で誘導します。

× タクシー乗り場は、「Taxi Stop」と「Taxi Stand」の2通りで英訳されています。同じ建物の中でも統一されていない場合があります。地域内、あるいはせめて同じ建物内では統一する方がよいです。

